

病害虫防除所情報 第5号

令和2年7月31日
山梨県病害虫防除所

【イネいもち病多発の恐れについて】

[発生状況と今後の見通し]

- 7月中旬に実施した病害虫防除所の水稻定点巡回調査では、葉いもち病の多発ほ場が一部地域で確認された。
- アメダスデータを用いた葉いもち病感染予測モデル BLASTAM によると、6月11日の梅雨入り後7月25日までの感染好適条件の出現数は平年に比べて多く、特に7月は平年の3倍の出現数となっているため、葉いもち病が急激に病勢進展することが予想される。また、今後も降雨が多い場合は、上位葉への進展や穂への感染・発病につながる可能性が高い。
- 箱施用剤の効果により、葉いもち病の発症が抑えられていたほ場についても、今後薬剤の効果切れに伴い急激に感染が拡大する恐れがある。

[防除対策]

- 本田の見回りを実施し、葉いもち病の発生状況を確認する。発生の見られる場合は直ちに治療効果のある薬剤（ブラシンプロアブル等）を散布する。
- 多肥（特に窒素）ほ場や抵抗性の弱い品種（コシヒカリ等）では、特に防除を徹底する。
- 本病の発生が見られるほ場では追肥の施用を控える。また、田干しも行わない。
- 穂いもち病の防除は、出穂直前および穂揃い期の2回、適期を逃さず実施する。

BLASTAM感染好適条件・準感染好適条件出現回数(7/1~7/25)

感染好適条件	R2	平年値	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
	2020	H21~31	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
●	41	13.3	28	2	5	8	24	25	4	17	7
①	2	1.4	3	0	0	0	5	3	1	1	0
②	1	3.7	2	14	1	2	0	3	2	1	8
③	1	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④	3	1.1	2	1	0	1	5	1	0	0	0
合計	48	19.6	35	17	6	11	34	32	7	19	15

感染好適条件	●葉面湿潤時間が8時間以上、 葉面湿潤時間中の平均気温が15~25℃ (ただし、21℃以下の場合は湿潤時間が9~15時間必要)、 前5日間の平均気温が20~25℃
準感染好適条件	①湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満
	②湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上
	③湿潤時間は10時間以上だが、湿潤時間中の平均気温が15~25℃の範囲外
	④湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い

※ 防除の詳細は、令和2年7月22日付け農業技術課発行の「いもち病」発生に伴う防除対策 <https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/documents/0722imochi.pdf> を参照してください。